

リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立あしや活動センター
リードあしや

河原の石をアートに

芦屋川お掃除隊30人、49袋分収集

芦屋川の川底にたまった石を拾い集め、その石を使って作品をつくる「芦屋川お掃除隊×石ころアート」が6月5日、芦屋市立あしや市民活動センター「リードあしや」を拠点に開かれた。川の環境保全と石のリユースを兼ねた取り組みで、両イベント合わせて市民や子どもら約50人が参加した。お掃除隊は長靴をはいた参加者が川に入って作業をし、石ころアートは絵の具などで石に絵や文字を描いた。午前中に開かれた「芦屋川お掃除隊」は、芦屋大学ボランティア部 Aqua、県立芦屋高等学校ボランティア部、芦屋映像倶楽部あしや、神戸新聞社、芦屋女



30人が参加した。参加者たちは、芦屋川の業平橋周辺で石拾いや草むしりに取り組み、荒れ果てていた中州など芦屋川を1時間かけて掃除した。川は足首ほどの水位で、実際に川に入って作業を行った。服が濡れて汚れたり、手がドロドロになる程作業に熱中していたが、日差しが出てなかつたので比較的過しやすかった。石は49枚の土嚢袋に集

芦屋川お掃除隊として、石ころ拾い・草抜きを体験した。石ころ拾いは、川にあるなるべく大きめの石を拾う作業だった。いくら石を拾っても終わりが見えず、袋に10個石を入れただけで

重労働…でも爽快 服の汚れ気にせず、草抜きも

もかなり重く、しんどい作業だった。しかし大きく綺麗な石を取った時の達成感や、石を取ったことで止まっていた水の流れが流れ出した時の嬉しさは大きかった。草抜きは、川に生えてい

石の表面キャンバスに



めて台車で川から運び、草はゴミ袋に、砂利はバケツにそれぞれ分けて入れた。川からリードあしやに運ぶ作業も重労働で、皆で協力して運んでいる様子が見られた。どれも量が多く全て取り除くにはキリがないほどだった。参加者の努力によって一瞥見て分かるほど綺麗になった。（西野琴音）

午後の「石ころアート」には、3才〜小学3年生の子どもと保護者合わせて24人が参加した。講師として森口郁子さん、金子美保さんを招き、「芦屋川お掃除隊」で集めた石ころに、絵の具や色ペン、クレヨンなどを使って、絵や文字を書いていった。「この石、新幹線みたい！」「三角になってる！」「子どもたちは多くの石の中から自分の好きな石を選び取った。石の形を利用したデザインを考え、絵の具で石全体を白や黒に塗ったり、たくさん絵具や色ペン、クレヨン、チョークを使ってカラフル



る雑草を根っこから抜いていく作業だった。初めは石ころよりも楽な作業かと思われたが、抜いた草は根っこに土や水を含んでいるため重たく、中々抜けない草もあり、決して楽ではなかった。しかし長く根っ

こを見ると、植物の生命力を感じた。ずつとしゃがんだまま、重たいものを扱う重労働だったが、芦屋川がさらに綺麗になればと、みんながワイワイ楽しく作業を行うことが出来た。天気は曇りで、比較的作業がしやすい環境だった。服の汚れは、芦屋川を綺麗にする為に頑張った証となった。（宮慶さくら）